防衛医科大学校ホームページ公開文書

「大腸癌における線維芽細胞の観察・研究」のお知らせとお願い

悪性腫瘍の多くで認められる間質細胞の1つである線維芽細胞は癌細胞の血管新生や浸潤・転移を促進することが多数の研究で報告されており、癌関連線維芽細胞（cancer-associated fibroblasts：CAFs）と呼ばれています。最近の癌治療においては、癌細胞そのものはもちろん、癌細胞を取り巻くCAFsを標的とした治療戦略が注目されており、癌組織において線維芽細胞や間葉系幹細胞などが存在し、癌微小環境を構築しています。

また、癌間質において、成熟した間質、未熟な間質、その中間にあたる間質に分類することで、予後と強い相関が認められており、このような癌間質の成熟度には癌微小環境を作り出している活性化した線維芽細胞が深く関わっている可能性があります。そのため、その関係を解明することが癌の浸潤や転移の機序の解明につながる鍵になると考えられます。

以上より、CAFsと呼ばれる活性化した線維芽細胞の病理組織学的特徴を探索し、予後との相関を検討することで、今後の大腸癌の予後改善に寄与できると期待されます。

今回、2011-2013年の間に防衛医科大学校病院外科で大腸癌に対して切除術を受けられた患者さんの切除検体の病理組織標本の免疫染色を行って、線維芽細胞を同定し、さらにその発現量と先述した間質の成熟度との相関及び予後との関連について検討します。また、比較対照のため、正常の大腸組織における線維芽細胞の発現を観察するため、同検体の非癌部組織についても使用する他、大腸癌肝転移についても同様に当院で肝切除を施行した患者さんの検体も使用させていただきます。

本研究は、研究のために新しく検体を採取したり投薬したりすることはなく、これまでの治療の既存資料・検体のみを用いる後方視的研究であります。

対象は2011-2013年の間に防衛医科大学校外科にて大腸癌に対し、切除術を受けた症例300例、大腸癌による肝転移で肝切除術を受けた症例100例を予定しております。

患者さんの臨床データはID等の個人情報とは無関係な番号付与による匿名化によって管理され、その他通常の診療と同様にプライバシーが保護されます。また、2011-2013年の間に防衛医科大学校病院外科で大腸癌および大腸癌による肝転移で肝切除術を受けられた方で、ご自分の検体・治療経過等の臨床データを研究に使わないで欲しいというご希望が有れば、研究リストの連絡先までご連絡をいただけますようお願いします。

なお、研究への使用の拒否の意思を表明されても、診療には全く影響なく、いかなる意味においても不利益を被ることはありません。

防衛医科大学校病院外科
主任研究者　末山　貴浩
電話番号　042－995－1216　内線2356